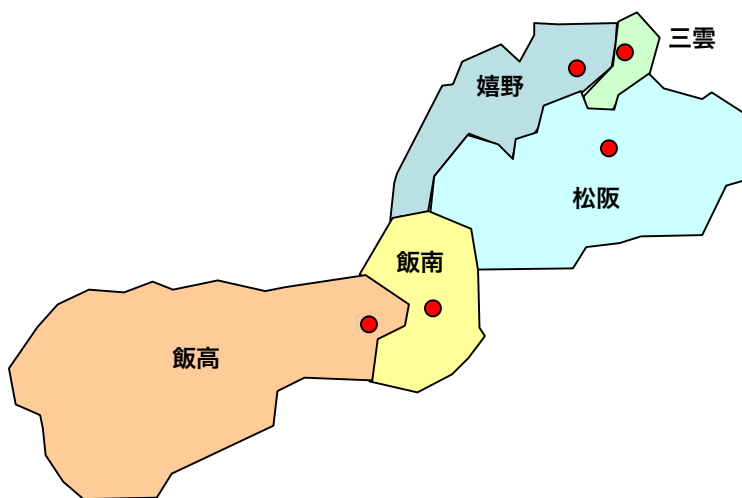


地域マネジメント

背景と目的

市域の広い松阪市にとって、これからの市民が主人公の市政を推進していくためには、市域の隅々まで血が通い神経が行き渡った市政の仕組みが必要となっています。また、近い将来の市町村合併による新市がさらに大きな市域を持つことや合併市町村がそれぞれに長い歴史を背景とした文化を持ち、独自に施策を展開してきたことから重要なことと考えます。

そこで、地域マネジメント（経営）の考え方の方向として、「地域自治、地域コミュニティの復権」を挙げ、そのシステムを提案します。



二つの道

(1) 自治会の再生

自治会の将来については、現在自治会の組織率が落ちてきている点や中心となって行動するキーパーソンが高齢化しているという時代認識の中では有望とは言えませんが、現在自治会の果たす役割は非常に大きなものであり、参画、協働、自立の方向への発展が期待されます。

自治会は過去の歴史的過程において、準自治体として機能していましたが、その機能の多くが専門職である行政、特に基礎的自治体である市町村に移っていく過程において、その自治体としての役割が縮小していったという分析がなされてきておりますが、この逆の過程をたどれば、その再生は不可能でないと考えられます。ただ、自治会自体がすでに成熟した組織であり、今の社会情勢の中でそれが可能かどうかは難しい状況にあると言えます。

(2) 地区自治の再生

自治会に対して、各地区の自治を担当する主体として現在の地区市民センター、または地区市民センターを集めたブロック単位での組織が有望です。その有利点は、

- (ア) 全住民をその対象とすることができる。
- (イ) 安定した組織として機能することができる。
- (ウ) 地域の活動拠点として日常時においても常駐の職員を置いて機能することができる。
- (エ) 日常において地域へのサービス活動を展開することができる。

などを挙げることができます。

これらの利点を活かしてこの新しいセンターの役割をラフスケッチすると以下ようになります。

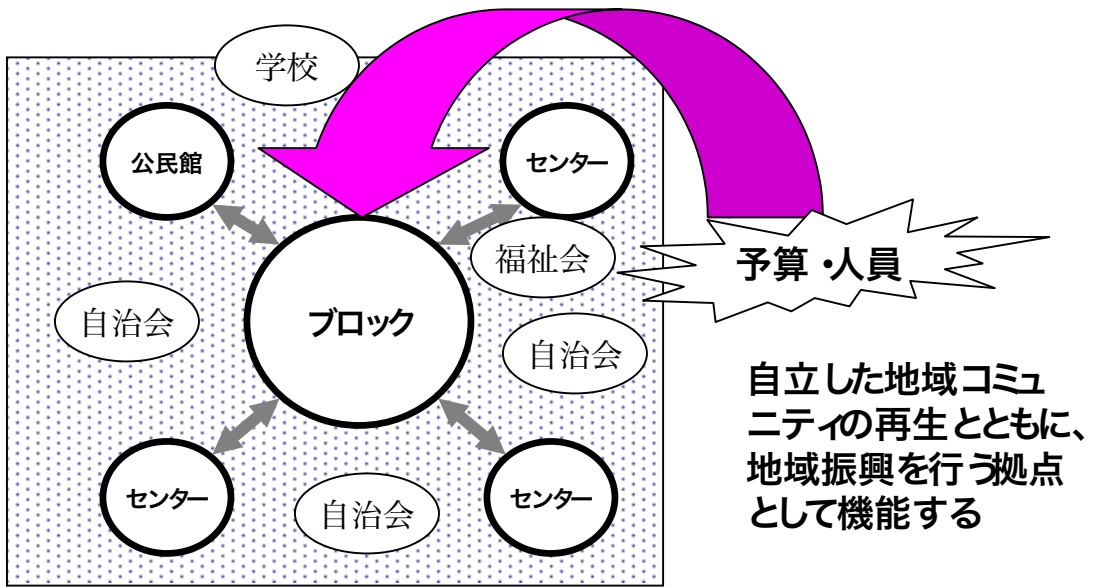
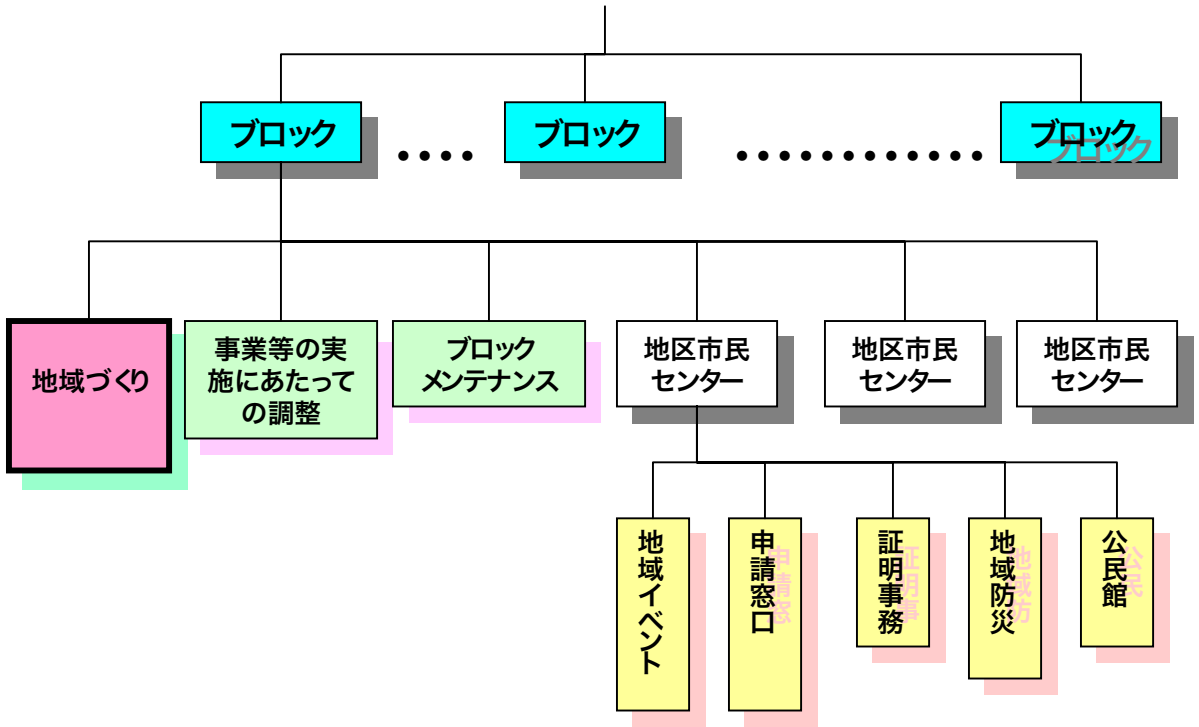
- (ア) 地域サービス活動（地域住民の信頼を獲得する）
 - ・地域メンテナンス（街灯管理、簡単な道路補修、地域清掃、書類配布等の便宜を図り、場合によってはメンテナンス材料の提供・保管）
 - ・簡易な行政行為については、自己決定できる権限・ノウハウの保有（エンパワーメントされた組織としての位置づけ）
 - ・防災・災害発生時の対応拠点
- (イ) 地域の将来像を決定する場
 - ・地域に関係する広域的計画への策定段階からの参画権
 - ・地域住民、関係者、アドバイザー等が協働した地域づくり計画及びその実行計画の策定
- (ウ) 地域内における公共工事・公共事業、まちづくり活動の実施における調整の場

地区自治のための組織

これらの役割を担うことができる組織を考えた場合、現在の地区市民センターの人員、物理的広さでは不足するため、ブロック単位でのまとまりをつくることが不可欠となります。

また、ブロック単位となると時期的に市町村合併における旧町役場に地域振興局としての機能を持たせるというアイデアとの整合を取ることが可能となるため、このことに考慮して地域振興局としてのブロックを整備することが有望と考えます。

組織構成と事務（案）



地域づくり計画・アクションプログラムのラフスケッチ

各ブロックごとに計画を立案し市民と将来像を共有する。

1. 地域づくり計画

- ・ 地域の将来像と地域づくりのコンセプトの提示
- ・ 地域の課題の整理
- ・ 地域課題の解決の方向とそのため戦略の提示
- ・ 広域的計画に織り込み実施される事業（ソフト・ハード）のリスト
- ・ 地域内で実施する事業（ソフト・ハード）のリスト

2. 地域づくり計画アクションプログラム

- ・ 広域的計画に織り込み実施される事業（ソフト・ハード）のリストと実施スケジュール
- ・ 地域内で実施する事業（ソフト・ハード）のリストと実施スケジュール
- ・ 上記事業の内、ハード部分を記入した事業マップ

